



■大学入試センター試験直前集会

1月11日(木)6校時、視聴覚教室で、3年生センター受験者101名を対象にセンター直前集会がありました。進路指導部国公立担当、山根先生が本集会の趣旨を説明し、そのあと校長激励でした。「**会場にのまれるな、人にのまれるな、問題にのまれるな**」と、3つの「のまれな」ための対策について話しをしました。次ぎに、進路指導部主任の川端先生からも自分の経験を踏まえての話や「**緊張しないためには集中力を高めること**」との激励がありました。その後、山根先生からセンター試験当日の諸注意と確認事項等がありました。

■大学入試センター試験 お疲れ様!!

13日(土)試験当日は、3年生担任、進路指導部や教科担任の先生方、教頭先生と朝8時に琉球大学図書館付近、9時からは沖縄国際大学正門近くで待機していました。しかし、殆どの皆さんは既に控え室に入っていたようで、結局、顔を見ることができた生徒は数名でした。

さて、受験した皆さん。自己採点の結果はどうでしたか? 目標としていた点数をとった生徒、または、そうではなかった生徒もいるかもしれません。しかし、**最後まで絶対に諦めないで下さい。何事も目標達成には、最後まで諦めないこと**が大切です。学校では受験対策として、早朝・放課後に講座を準備しています。**最後の最後まで頑張りましょう!!**

■卒業テスト

22日(月)から24日(水)まで卒業テストがあります。**高校最後の考査**です。**精一杯、頑張ってください。**

**進路がまだ決まっていない皆さん。**卒業後には、大学、短大、専門学校や企業など、**いずれかの学校や職場に所属できるようにして下さい。**担任や進路指導部担当の先生と早く相談して下さい。**先生達は皆さんを応援しています!!**

■3年音楽Ⅲ 卒業コンサート



16日(火)、音楽Ⅲ選択の3年生22名、16組による『卒業コンサート』がありました。ピアノソロ、三線弾き語り、リコーダー五重奏、ギター弾き語り、マリンバ、ピアノ連弾など色々な楽器の演奏があり楽しいコンサートでした。

小さい頃から習っている生徒は、**表情豊で素晴らしい演奏**を披露してくれました。また、「今、演奏した生徒は、殆ど初心者です」と演奏後の澄代先生のコメントに、**参観した先生方から驚きの声が上がった生徒も何名かいました。**楽器が演奏できるようになるには時間が掛かります。まして、人前で演奏は緊張もあり難しいです。**短い期間でみんな、よく頑張った**と思います。

ある女子生徒への澄代先生のコメントで「ピアノ演奏は日によっても波があります。**指が鍵盤に吸い付くときと、はじかれるとき。**そこで**演奏は修正力が大切**です。最初の出だしで少しはじかれましたが、途中から良く修正できたと思います。皆さん、拍手!!」と評価していた。「指が鍵盤に吸い付く、はじかれる、修正力」の言葉がとても印象的でした。

これからも**楽器演奏、ずっと続けて欲しい**と思います。

**楽器はきっと皆さんのいい友達**になりますよ。

授業の合間に、沢山の先生方も応援に来ていました。

★本の紹介コーナー★

書名：日本一心を揺るがす新聞の社説  
著者：水谷もりひとみやざき中央新聞編集長



〈人間の心には「知・情・意」という三つの機能がある。(中略)情報は、報道の「報」の上に「情け」を乗せている。「情け」とは人間味のある心、思いやり、優しさ。情報は常に「情け」を乗せて発信したい。ジャーナリズムは「知」ではなく「情」を愛する媒体でいいと思う。〉と本書の「はじめに」で著者はいう。『みやざき中央新聞』は毎週月曜日発行のミニコミ紙で、事件・事故など暗いニュースは一切なく、面白かった話、為になった話、感動した話などいい話ばかりの新聞。「**どうでもよいこと。不必要なことをやたらにたくさん知るよりも、たとえ少しでも真によいこと、必要なことを知るほうがよい**」というトルストイの言葉との出会いが著者の情報とメディアに対する原点という。本書は、その社説からなる。

◆新年は何と言っても年賀状である。以前、朝日新聞の読者欄に、子どもが山間部の小学校に通っているという40代の母親が「校長先生からこんな年賀状が来ました」と投書していた。その年賀状にはこんなことが書かれてあったそうだ。

「おもちをたべすぎておなかをこわしましたよ」「おとしまをぜんぶむだづかいしましたよ」「わがまばかりいってしかられましたよ」都会の小学校だったら、すぐに保護者から抗議の電話が殺到するご時勢だが、この母親はその文章を読んで、なんてステキな校長先生なんだろう、と思った。

◆小学校1年生の三女、こはるちゃんが学校から帰ってくるなり、嬉しそうにこう叫んだ。「お父さ〜ん、今日の宿題は抱っこよ!」何と、こはるちゃんの担任の先生、「今日はうちのから抱っこしてもらって来てね」という宿題をだしたのだった。(中略)その夜、こはるちゃんはお母さん、おじいちゃん、ひいおばあちゃん、2人のお姉ちゃん、合計6人と「抱っこの宿題」をして、翌日、学校で「抱っこのチャンピオン」になったそうだ。

数日後、平田さん(お父さん)はこはるちゃんに聞いてみた。「学校のお友だちはみんな抱っこの宿題をしてきとったね?」するとこんな悲しい答えが返ってきた。「何人か、してきとらんやった」。でも、世の中すてたもんじゃない。次ぎに出てきた言葉に救われた。「だけん、その子たちは先生に抱っこしてもらった」ステキな先生だなあと思った。

確かに、世の中暗いニュースが多い。この様なミニコミ紙があってもいい。いや、あった方がいい。あって欲しい。